

「浅間山大噴火から240年」に係わる連携事業の紹介について

このたび、天明三年（1783）年の浅間山大噴火から、240年・240回忌の年を迎えるにあたり、関係資料や展示を有する機関等で連携をとりあい、企画展や講演会の開催をおこなう準備を進めてまいりました。

5月の浅間縄文ミュージアムの展示開始などを皮切りに、事業が進行しており、県内外16の機関の賛同をもって進めております。現在検討中の機関等もありますので、順次連携数や内容の更新がございます。

あわせて、スタンプラリーの計画もあります。この機会に近世の火山災害として知られる「天明三年の浅間山噴火」の歴史を訪ねていただければ幸いです。

2022年7月 連携機関担当者一同

（発起人代表 孺恋郷土資料館 館長 関 俊明）

「浅間山大噴火から240年」企画の趣意

県内外で知られる「天明三年の浅間焼け・浅間押し」は、十千十二支（じっかんじゅうにし）・千支（えと）でいう「癸卯（みずのとう）」の年に発生した災害でした。浅間山噴火災害と天明の飢饉が重なり、被害地域の風土を考える上で、欠くことができない大規模な歴史災害であったといえます。令和4（2022）年8月5日が、仏教でいう4廻り目の「癸卯」に因む240回忌の年を迎えることとなります。

そこで、令和4年（2022年）から翌年にかけての期間・災害からの経過の節目の年に、賛同する展示施設や関連機関で、この災害に係わるテーマを取り上げ、講演会や企画展示を開催し、博物館活動等のつながりをもって、取り上げる発想で準備に取り組んできました。

歴史災害を振り返ることや供養の念の再確認、出来事を思い返すことによる減災意識の高揚へとつなげていく等々、多くのテーマの設定もできると思われます。240年前の歴史災害を思い返し、再確認する取り組みとして、実施をすすめております。

「天明三年」の記憶は、広域に分散していますが、地区、地域をつないでいく取り組みとして、これまで営まれた周年行事の例に倣い、「点」ではなく博物館や展示を扱う機関等の「面」として、“浅間山大噴火から240年・「天明三年」を語り継ぐ”の共通テーマで企画に取り組もうとする提案であります。時間経過の節目を契機に、災害や教訓を語り継ぎ、再認識し、天明三年浅間災害というテーマで先人が取り組んできた数々の追善行為や記念的な行為をたどりつつ、今を生きる代の自分たちの活動として意を新たにすべきと考え、今回の趣意といたします。